

## 長与町議会50周年記念事業特別委員会報告書

### 1. 設置の経緯

長与町議会50周年記念事業については、平成30年4月18日の全員協議会において、事業提案を募集したが不調に終わった。その後、5月14日に議長諮問により議会運営委員会で検討することとなった。

議会運営委員会では、7回にわたり事業内容について協議を行ったが、8月27日の委員会で、特別委員会設置により事業検討を進める方針を確認し、9月4日の全員協議会において承認され、9月7日の本会議において「長与町議会50周年記念事業特別委員会」設置決議案を上程し、全会一致で可決された。

### 2. 特別委員会の概要

名 称	長与町議会50周年記念事業特別委員会
設置目的	長与町議会50周年記念事業の実施検討
委員定数	15人（議長を除く）
調査期間	本事業が終了するまでとし、閉会中もなお継続して行うことができる。

### 3. 委員会の構成

委員長	金子 恵				
副委員長	河野 龍二				
委員	浦川 圭一	中村 美穂	安部 都	饗庭 敦子	
	安藤 克彦	分部 和弘	西岡 克之	岩永 政則	
	喜々津 英世	山口 憲一郎	堤 理志	吉岡 清彦	
	竹中 悟				

### 4. 会議の経過

#### 第1回特別委員会（平成30年10月1日）

第1回特別委員会では、ゼロベースで事業提案を求めたが、議会運営委員会が提案した「記念誌」「議場コンサート」「講演会」以外に新たな提案は無かった。

議会運営委員会で検討された「記念誌」「議場コンサート」を進める方向で検討すべきとの前向きな意見もあったが、事業実施に当たり予算（財源）、執行の面から問題があるとの意見も出された。また、事業の実施時期についてもさまざまな意見が出され、どのような事業を50周年記念事業として進めるのか、具体的な結論は出せず、次回、他市町の実施例等の資料を揃え、新たに検討することとした。

## 主な意見

- 議会単独で記念事業を実施する旨、全員協議会に諮って特別委員会を設置した。
- 特別委員会の役割は、審査・調査であり議長に答申まで。予算執行はできない。
- 実施に関しては、プロジェクトチーム、ワーキンググループで。
- 既定予算内での実施ができるように調査、研究をしてはどうか。
- 既定予算流用は「目的外使用」の疑いもあり、住民監査請求も視野に入れるべき。
- 議場コンサートは理念付けが不明確で、記念事業にならない。
- 記念誌は、短期間で作れるのか。
- 議会運営委員会で検討したものをベースに、+αの議論をすべき。
- 議員が汗をかいて行うことが大切である。
- 議会だけが年度内実施というのはおかしい。

## 第2回特別委員会（平成30年10月11日）

第1回特別委員会を踏まえ、会議冒頭、本委員会設置までの経緯について再確認した。本特別委員会の設置目的である「実施検討」に沿って進める予定だったが、特別委員会では実施内容を決定することはできないという指摘もあり、前回同様、特別委員会としてどのように進めるべきかの議論に集中した。今回も予算面、実施時期についての意見が出され、事業が先か、予算が先かの話になり、前向きに検討していくことから程遠い議論となった。特別委員会は、記念事業として提案されたことを議長に答申することで終結すべきとの意見もあった。

議論では一定の方向性が出せず、記念事業を「記念誌の発行」、「記念行事の開催」の2つに分け、各委員からの意見として調査票を提出してもらい、その結果を基に協議することとした。

## 主な意見

- 町制（執行部と一緒に）のなかでの実施は理解できる。記念誌に関しても、議会だよりに追加、別冊作成、町記念誌に便乗などの方法がある。
- 二代表制であり、「議会独自」で実施しても良い。
- 1年かけて実施すればよい。年度内実施に限定することはおかしい。
- 議会運営委員会で協議し、議員全員協議会でも承諾された。
- 議会には執行権がない。
- 執行部と一緒に実施すべき。
- 執行部と一緒に実施すると議会の内容が薄くなる。
- 記念誌作成、記念事業は分けて判断すべき。
- 予算が余ったから使うという考えはおかしい。議会だよりの予算を使うことは「目的外」になる。

### 第3回特別委員会（平成30年10月19日）

「記念事業に関する調査」の結果（各委員が提出した調査票は別紙のとおり。）を基に報告書をまとめ、議長に報告することとした。また、実施に関しては議長の判断を仰ぎ、全員協議会において検討することとした。

#### 主な意見

- ・調査して、議長に報告を上げるだけで良いのではないか。
- ・調査表を基に、実施することの同意を得、報告書をまとめる。
- ・作業部会（5～6人）を作り実施することも良いと考える。
- ・特別委員会を作ったのだから、この委員会内で小委員会を作っても良いと思う。
- ・この委員会は議長諮問である。結果を答申（報告書）し、実施するかは議長が判断することになっている。流れとして、この委員会の中で小委員会を作るという考え方は少し乱暴であると感じる。
- ・8月27日全員協議会において、議会運営委員会からの説明後、特別委員会を設置し事業を実施していくことで同意し、本会議で議決したという責任は考えるべき。また、記念誌、行事内容を決定しその後、部会を作り進めていく方が良いと思う。
- ・議長から「一定の方向性」を示してほしいといわれている。その点は委員会で決めていくべき。また、中間報告として考えられないか、検討してほしい。
- ・50周年記念事業に関して、どのようなことを実施するのかということを検討してほしい。しかし、そこまで話し合いができない。次の検討場所がどこになるかはわからないが、そこで内容的なものを話し合してほしい。
- ・次回、正式な報告書を確認してもらい、この委員会を終了の方向で考える。

#### おわりに

実施検討を目的に本委員会は設置されたが、特別委員会の性質上、ゼロベースでの協議を行うこととした。3回にわたる特別委員会開催の中で、設置以前に十分協議すべきだった意見が多く出された。事業内容に関しては、「記念事業に関する調査票」の結果をもとに考えると、記念誌の発行は実施しても良いとする委員が多く、記念行事の開催に関しては、実施するとした委員が多数であった。

以上、当初の委員会の目的からは多少乖離しているように思えるが、各委員の意見の場になり得たことは、良しとすべきであると考えている。

この報告書において、特別委員会を終了するが、議長判断の上、今後の記念事業の展開に期待するものである。

長与町議会50周年記念事業特別委員会  
委員長 金子 恵